



Design@Communities Award 2017

やって・みて・わかって

2016年12月25日

社会福祉法人 ぷろぼの 理事長  
山内 民興 様

### 「Design@Communities Award 2017」審査結果 通知

1/3

このたびは「Design@Communities Award 2017」アワードへ応募いただきまして心より  
お礼申し上げます。

貴提案プロジェクトについて、11月、12月の審査の議を経て、下の結果となりましたのでお知らせ  
いたします。

#### 記

タイトル： 新しい・はたらくを・つくる福祉型事業協同組合（あたつく組合）の挑戦

審査結果： 大賞

審査総評： 別紙で参照ください。

授与： 賞金 200万円  
賞状

賞金： 覚書締結後に銀行振込します。

賞状： 授賞式にて授与します。

「Design@Communities Award 2017」授賞式、伴走ワークショップを下記のとおり開催いたします。

#### 授賞式

日程：2017年2月9日（木）

場所：社会福祉法人 ぷろぼの FellowShipCenter（奈良県奈良市大宮町3丁目5-41）

#### 伴走ワークショップ（第1回）

日程：2017年2月10日（金）

場所：社会福祉法人 ぷろぼの FellowShipCenter

内容：提案プロジェクトの問題設定と展開計画の俯瞰と議論

詳細のご案内は追ってご連絡いたします。

Design@Communities コンソーシアム：

東京藝術大学デザイン科

公益法人 日本デザイン振興会

IIDj 情報デザインアソシエイツ



Design@Communities Award 2017

やって・みて・わかって

2016年12月25日

## 「Design@Communities Award 2017」審査総評

2/3

審査員 國定 勇人

めまぐるしく変わる社会環境や、地域や個人の細かいニーズに応じた多種多様なサービスが供給される現代社会においては、「スピード感を持った変化への対応」が求められている。事業の遂行において、巨大化し機能分化した「都会」や「大企業」では、手続きの複雑化などにより、求められているスピードとのタイムラグが生じることが多いが、一方で「地方」や「中小企業」は小回りが利き素早く変化に対応できることが強みであり、これからの時代に更に重要性を増してくる。また、経営資源に限りがある中小企業では、大企業のように全てのビジネスを自己完結できないが、自社の得手を持ち寄り、複数の企業が連携することで、案件毎に最適な連携体を構築可能なことも強みである。

本件は、ニーズに応じて、その都度、最適な体制を構築できる柔軟な組織で構成されており、スピード感を持って多種多様な消費者ニーズに応えられるシステムを構築している点が評価出来る。まだ立ち上げまもなくリスクもあるが、成功すれば地方を救う最高のモデルとなりうる。是非とも、我々地方のため、日本を今もなお支え続けている中小企業のため、頑張ってください。

審査員 松崎 祐介

当プロジェクトは、奈良市内の中小事業者が連携して組合を設立し、行政等から発注される業務を受注しうる共同体の構築を目指すものである。

今後、地方部においては、人口・事業所数の減少が見込まれ、地域内の中小事業者に対して発注される業務量の減少が見込まれる。また、業務の効率化・高度化により、受注者に期待される業務水準についても、高まることが予想される。

このような環境下において、地域の中小企業者が生き残るためには、地域内での連携体制の構築は非常に重要になるものと考えられる。しかし、各事業者がそれぞれの考えがある中で、実行性のある連携体制を構築するのは、現実的にみて難しいケースも多い。また、業務の質を維持・向上するための教育のシステムも必要となる。

当プロジェクトでは、こういった地域に不可欠でありながらも、実現の困難性が高い課題に対して挑戦するものであり、社会的意義高く、かつ他地域への展開可能性も高いと考え、アワード受賞対象に相応しいと判断したものである。



Design@Communities Award 2017

やって・みて・わかって

2016年12月25日

審査員 斎藤 精一

障害を持っている方々の雇用創生の必要性は今まで多く語られてきたものの、デザインやPR業務等を仕事にする発想はあまり無かったように感じる。奈良の起業における現状にもマッチしているだけではなく、様々なハンディを持っているひとがそれに応じて自分の能力に応じてスキルセットを「あたくし組合」を通して学びその技術や知識、視点で地場産業発展するために産業化する意義は大きい。

3/3

非常にバランスがよく実践的な素晴らしい試みだと思う。今まで障害を持った方々には単純作業というステレオタイプであったが、ハンディがあっても世の中のスタートアップの波に乗ることが出来る可能性を大いに感じた。もしかすると、福祉に対して優しく、その人々が活躍できる場所として「奈良」という場所が認識される事も将来あるのかもしれないと強く感じた。

Design@Communities コンソーシアム

奈良をフィールドに社会の新たな活力創成として障がい者・子育て母親・若者たちのはたらく場を支える「人が日々を生きるために大事なことは”はたらくこと”である」という主張は、私たちの社会を再設計するための重要なメッセージと言える。

企業数が少なく地場産業が衰退し、新規事業の生まれにくい状況にある地域に、仕事とはたらくき手が出会う仕組みをつくること、そこに地域を育む新たな人と産業の共同体を構築することの社会的意義は大きい。

提案プロジェクトの課題は、行政などからの発注業務遂行のために「都度、福祉施設+NPO+企業で共同体をつくり対応する」はたらく場の仕組みづくりである。それを可能にする、中小企業・NPO・就労者が連携するための他業種企業参加の事業協同組合としての活動が組織化されていることは高く評価できる。そこに見出すことができるのは、人と産業が相互に支え合う社会を形づくるための参加型デザインの可能性である。

人と人をつなぐことがその原動力となる事業を起しそれを継続させようとする仕組みは、この提案プロジェクト実践のなかでどのように発展し精緻化されていくのだろうか。これまでどちらかというと社会的活動への参加機会の少なかった人びとが、この社会の新たな主戦力になるための社会的なツールがそこにデザインされていくことを期待したい。